

第3章 地域別事業計画



東部地域 [駒込、巣鴨、西巣鴨、北大塚、南大塚]

東部地域は、人口7万6千人、約4万4千世帯が暮らし、北部地域に次いで人口密度（245人/ha）が高い地域です。放射状に伸びる幹線道路と地下鉄が通っているため、都心方向へのアクセスがよい地域です。

中高層のマンションが急速に増えつつある一方、古からの個性ある商店街が形成され、その周囲に住宅地が広がり、染井霊園や敷地規模の大きな教育施設等に、まとまりのあるみどりが残っています。

5月には満開のツツジに彩られる駒込駅の北西側一帯は、かつて「染井」と呼ばれ、江戸時代には植木の一大生産地として栄えました。「ソメイヨシノ」の発祥の地でもあり、駒込のブランドづくりに向け、「染井の里づくり」を進めています。また、我が国初の栄養学の専門大学としての歴史を誇る女子栄養大学駒込キャンパスがあり、「食」を通じた健康増進の建学理念が地域の中で実践されています。

巣鴨は旧中山道の江戸の出入口にあたります。「江戸六地蔵」のひとつが安置される眞性寺や、「とげぬき地蔵」で有名な高岩寺などが街道沿いにあり、全国的に知られる地蔵通り商店街は、「おばあちゃん原宿」として連日多くの人々で賑わっています。

西巣鴨の一部には、寺院が集まる寺町が形成され、また、仏教宗派の壁を越えて建学された大正大学があります。また、戦前期には大都映画撮影所であった旧朝日中学校は、現在、文化拠点「にしすがも創造舎」として生まれ変わり、地域の人々を巻き込んだ文化芸術創造拠点として多彩な事業が展開されています。にしすがも創造舎は、旧朝日中学校の改修工事に伴い、6月に東部区民事務所に仮移転します。

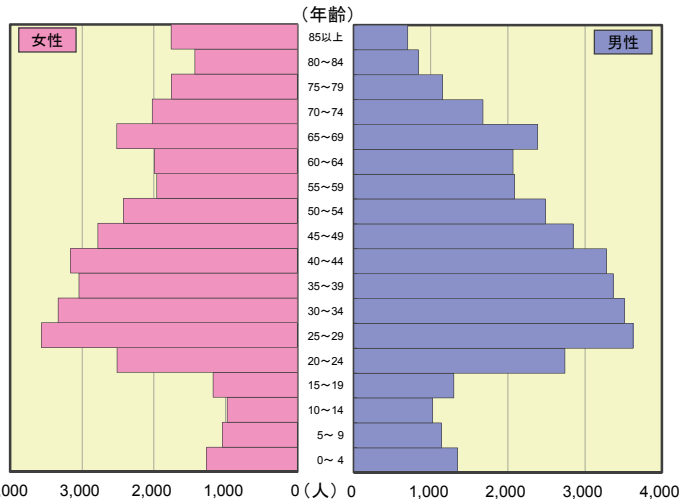
大塚は、都内で唯一都電荒川線と山手線が交差するところで、戦前の一時期は池袋をしのぐ繁華街として栄えました。大塚駅前には、8月には大塚阿波踊りの舞台となり、毎年、観客を熱い祭りの渦に巻き込みます。南北自由通路の完成、バス乗り場やタクシー・プールの再編に引き続き、JR駅ビルに直結する南口地下自転車駐車場、南口駅前広場の整備など、魅力的で安心・快適な駅周辺空間を創出します。また、特定整備路線として選定された補助81号線の整備を促進し、沿道まちづくりを進めながら、安全・安心なまちへと転換していきます。



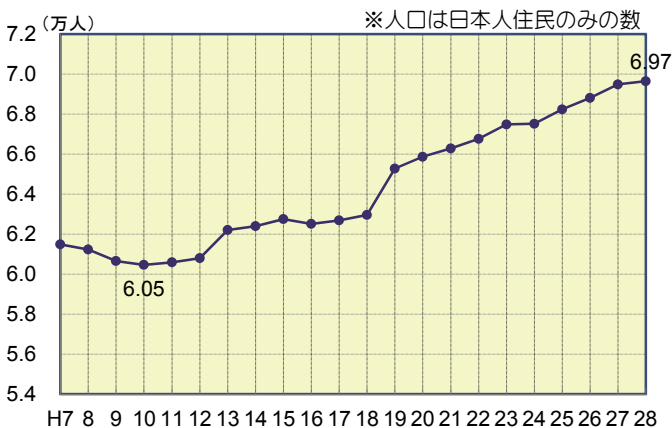
1	面積	311.4 ha
2	人口	76,266 人
3	人口密度	245 人/ha
4	14歳以下の人口の割合	8.9 %
5	65歳以上の人口の割合	21.3 %
6	外国人人口の割合	8.7 %
7	一般世帯数	43,732 世帯
8	ファミリー世帯の割合	22.6 %
9	単独世帯の割合	60.3 %
10	建築物の耐火率	76.4 %
11	一人あたりの公園面積	0.45 m ²
12	緑被率	11.9 %

- [2~6] 住民基本台帳[日本人住民及び外国人住民]（平成28年1月）
- [7~9] 国勢調査（平成22年）
- [10] 土地利用現況調査（平成23年）
- [11] 公園・児童遊園現況一覧（平成27年4月）
- [11] 住民基本台帳[日本人住民及び外国人住民]（平成28年1月）
- [12] 緑被現況調査（平成21年）

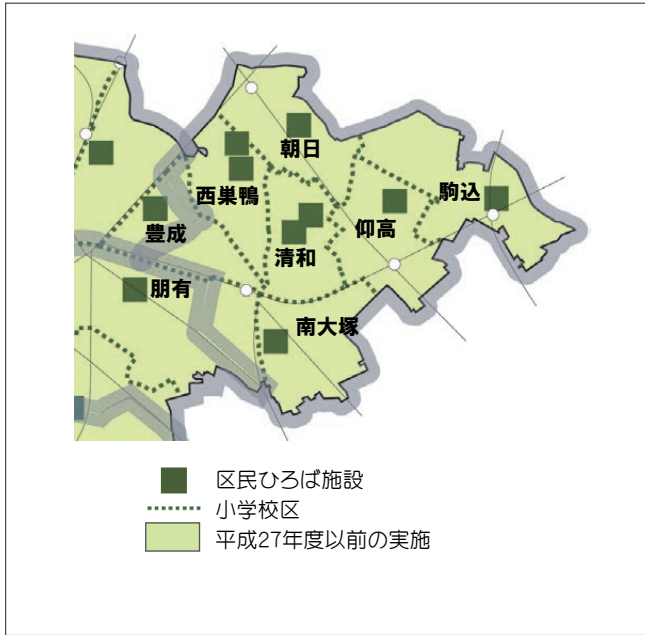
人口の年齢構成 (平成28年1月)
住民基本台帳(日本人住民・外国人住民)



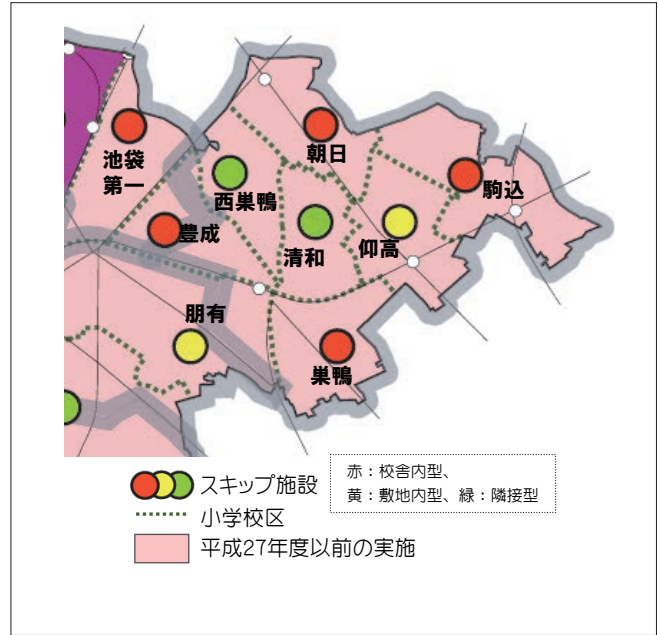
人口の推移



地域区民ひろばの展開状況

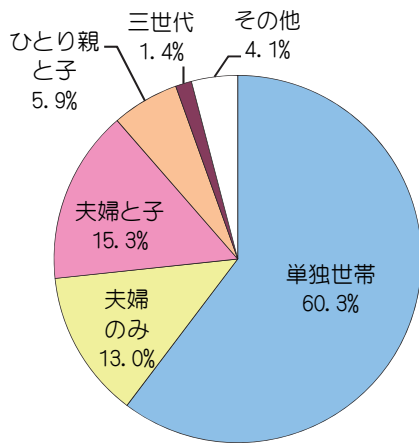


子どもスキップの展開状況

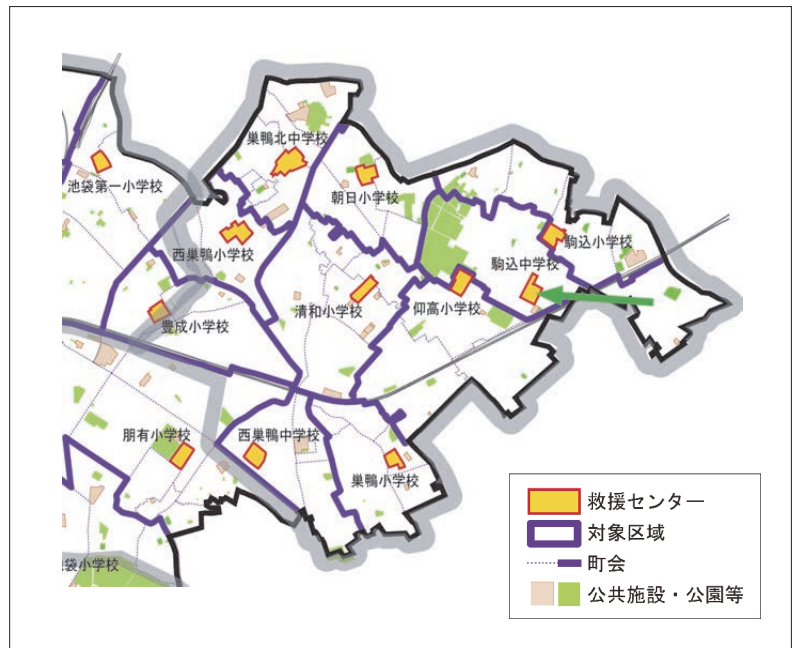


世帯の状況 (平成22年10月)

国勢調査

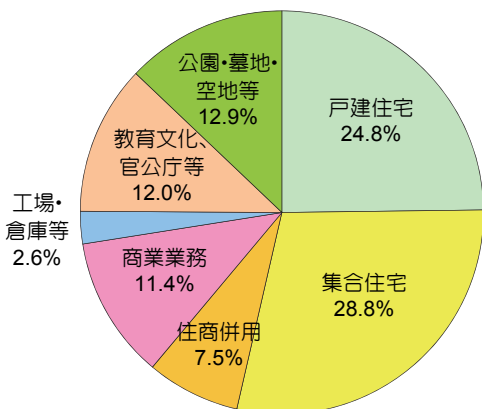


救援センターと対象区域



土地利用の状況 (平成23年)

土地利用現況調査(豊島区)



用途別・建物床面積の変化

用途別構造別土地利用データ(東京都主税局資料)

